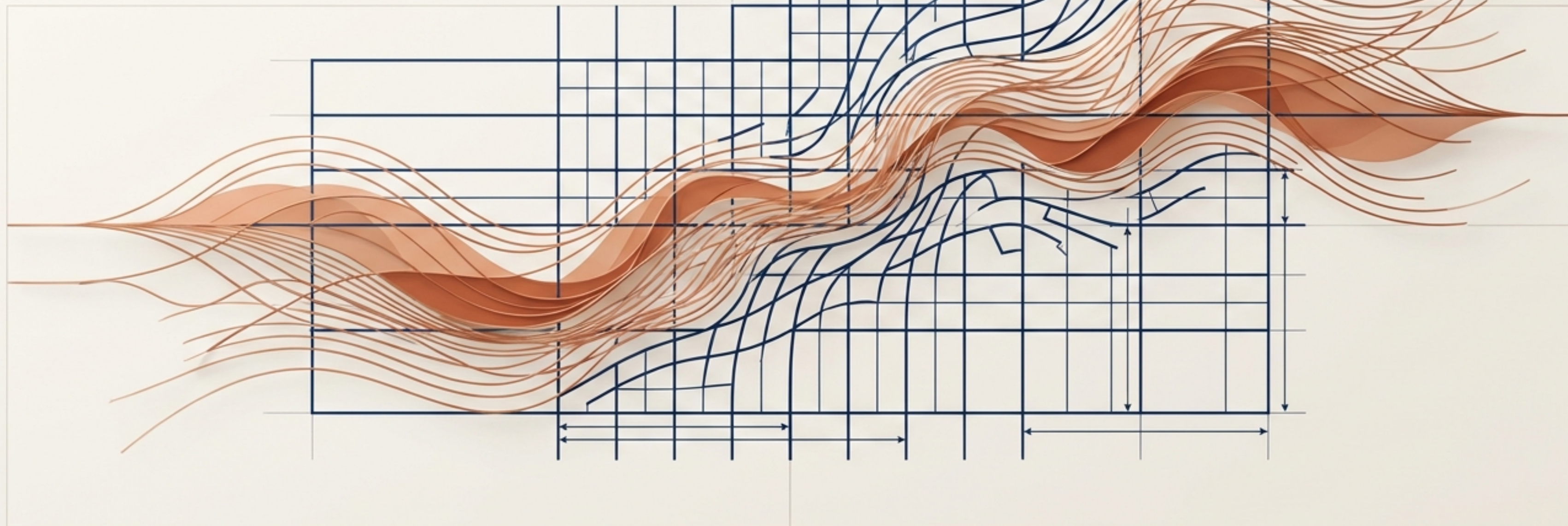


意匠法の転換点

生成AIがもたらす「速度」と、
現行法という「構造」の衝突



エグゼクティブ・サマリー：3つの現実

50%

ワークフローの短縮

コンセプト設計からCADまでの期間が半減し、従来の開発スピードを根本から破壊。（MistyWest社事例）



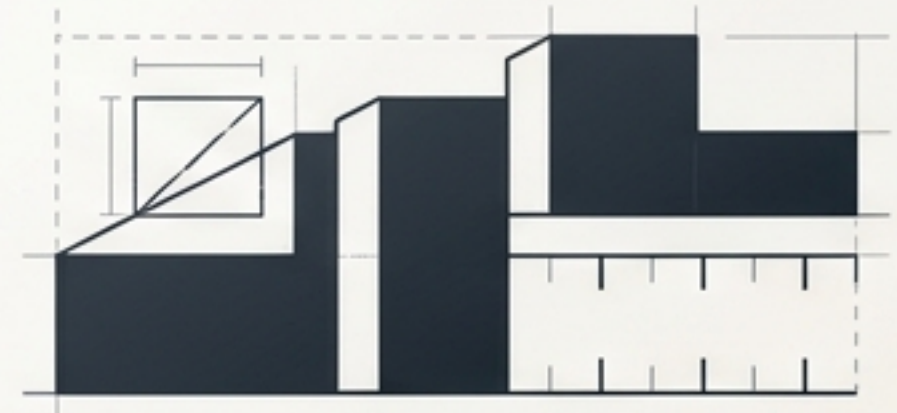
世界的な法解釈の分断

「創作者は人間のみ」で一致しつつも、AI生成物の保護範囲や人間関与の要件は日米欧で大きく異なる。

2026

意匠法改正のデッドライン

「先回り大量生成」の脅威に対抗すべく、日本主導でのルール形成と抜本的な制度改正が迫る。

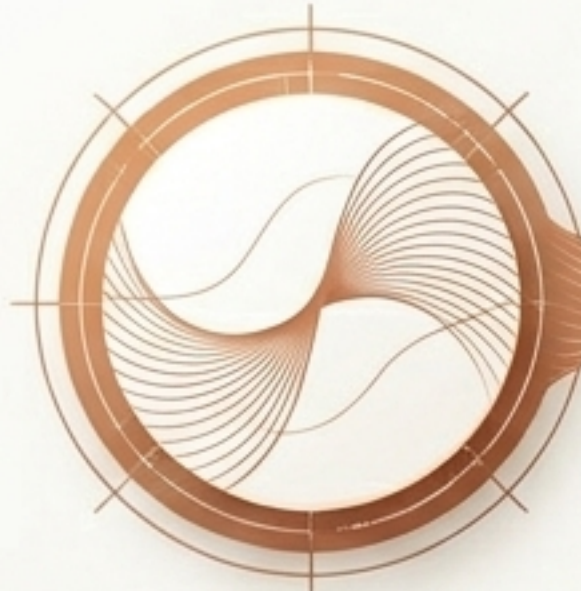
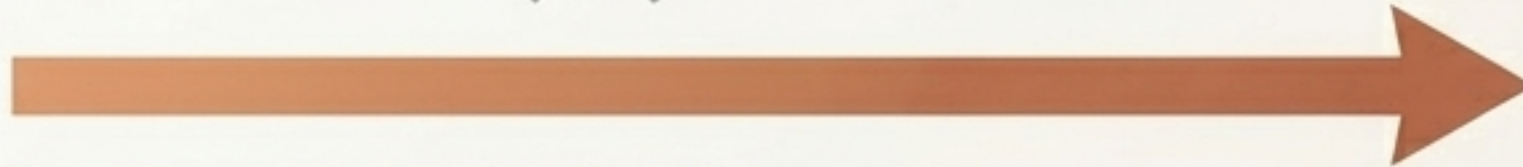


新たなワークフローの現実：プロセスは半減した

従来のプロセス：約4週間



生成AI統合プロセス：約2週間



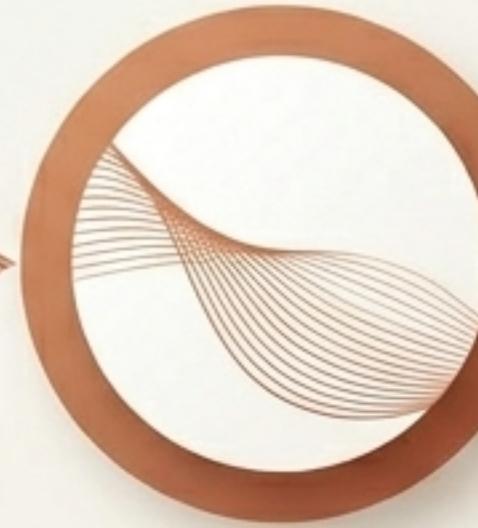
ChatGPT

ペルソナリサーチ /
言語による要件定義



**Midjourney /
Stable Diffusion**

広範なコンセプトの
大量探索と精密制御



Vizcom

手描きスケッチから
フォトリアルなレンダリ
ングへの瞬時変換



**SolidWorks /
Fusion 360**

最終的なCADモデリングと
人間による意図の定着

回答企業の45%が既に生成AIを導入済み。カナダ・MistyWest社の事例では、
LiDARデバイスの設計期間を4週間から2週間へ半減。(特許庁調査)

産業界における生成AI実装の現在地

Toyota TRI

エンジニアリング制約の統合。
テキストから空力係数や室内寸法を
組み込んだ車両デザインを直接生成。

Turing × 日南

圧倒的な開発速度。
自動運転EVのコンセプトからVR/3D
模型までを、Stable Diffusionを活用
しわずか約1.5ヶ月で完遂。



Panasonic

創発型デザインへの移行。
ラムダッシュ（電気シェーバー）の
モーター構造をゼロベースからAIで
再設計。



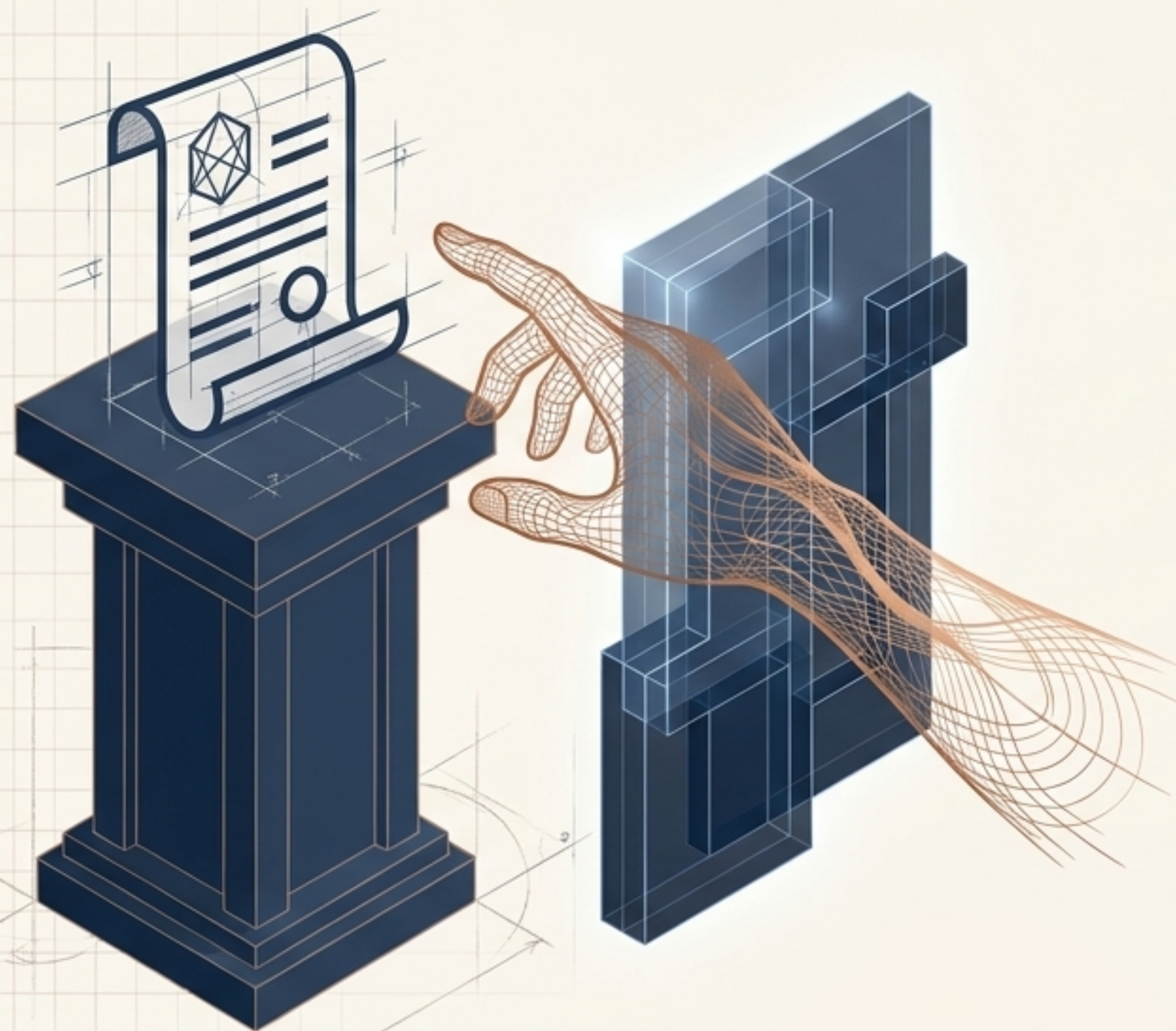
Autodesk

3Dネイティブ生成。
Autodesk Assistantにより、自然言語
から編集可能な3D CADジオメトリを
直接生成する時代へ。



「創作者は自然人のみ」という世界的な合意

主要法域において、AI自体は「発明者」や「創作者」になり得ない。



日本の司法判断

2024年5月 東京地裁 DABUS判決 / 2025年1月 知財高裁支持
「特許法に規定する『発明者』は、自然人に限られる」

特許庁 中間とりまとめ (2024年5月)

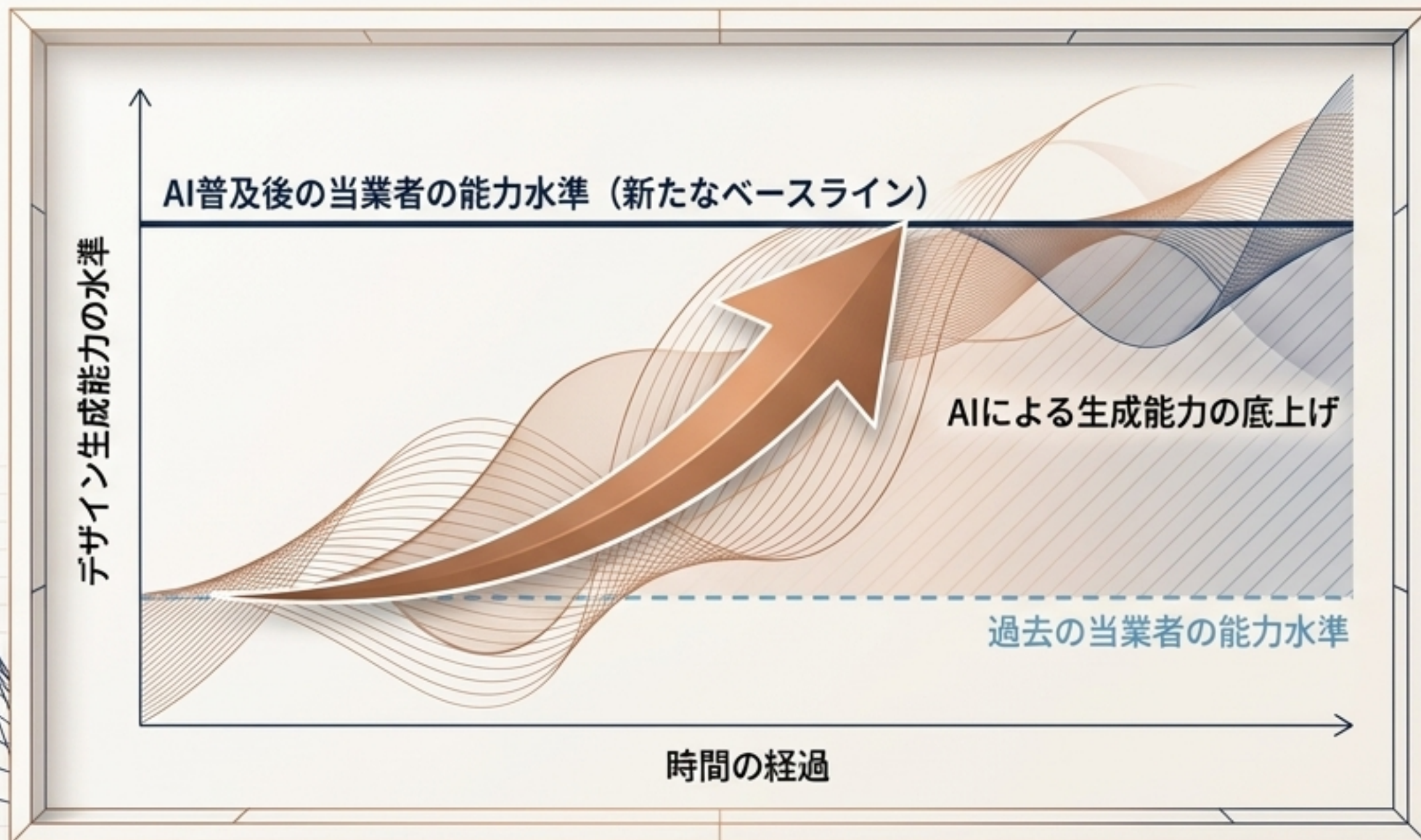
AIを「道具」として用い、自然人の実質的関与があるAI支援デザインのみが意匠登録の対象となる。人間の有意な関与がないAI自律生成デザインは対象外。

世界AI意匠登録マトリクス：分岐する保護範囲

法域	AI単独登録	人間に求められる要件	特記事項
日本 (Japan)	不可	実質的関与	意匠法に「依拠性」の要件なし (独自生成でも侵害リスクあり)
米国 (USA)	不可	着想 (Conception)	AIは実験機器と同列の「道具」として扱われる
ドイツ (Germany)	不可	決定的影響 (Decisive Influence)	人間の貢献自体が発明的である必要はなく、他国より寛容
欧州 (EU)	条件付	客観的基準のみ	創作者が人間であることの明示的要件がなく、登録可能性が最も高い
中国 (China)	不可	自然人発明者の記載必須	第4類型 (AI生成発明) は発明者不在のため事実上出願不可能

構造的脅威 I：跳ね上がる「創作非容易性」のハードル

AIの普及により、当業者が容易に多数のバリエーションを生成可能になることで、意匠法第3条2項の判断基準が実質的に引き上げられるリスク。



🏢 特許庁アンケート結果 📄

66%

回答者の66%が、「AIの進展により創作非容易性の判断基準に影響が出る」と予測。

従来なら「クリエイティブ」とされたデザインが、今後は「AIを使えば容易に思いつく」として保護されなくなる懸念。

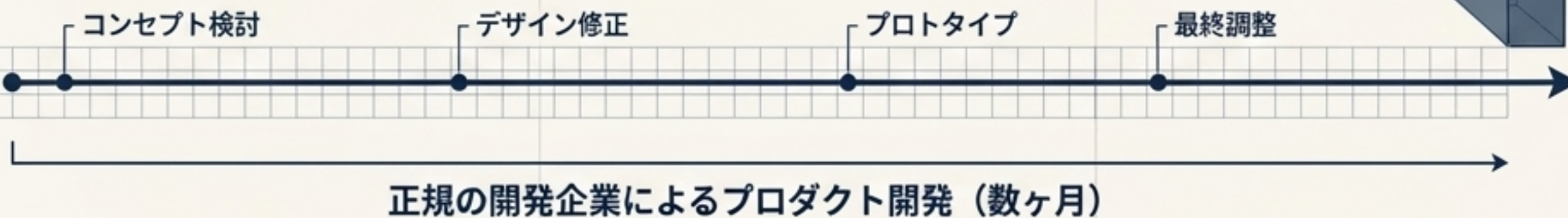
構造的脅威 II：「先回り大量生成」による新規性の破壊

第三者がAIで次期モデルを予測しネット上に公開することで、正規の開発者が意匠出願前に「新規性」を喪失する致命的リスク。

The AI Algorithm

第三者によるAIを用いた次期モデルの予測と大量バリエーションの即時公開

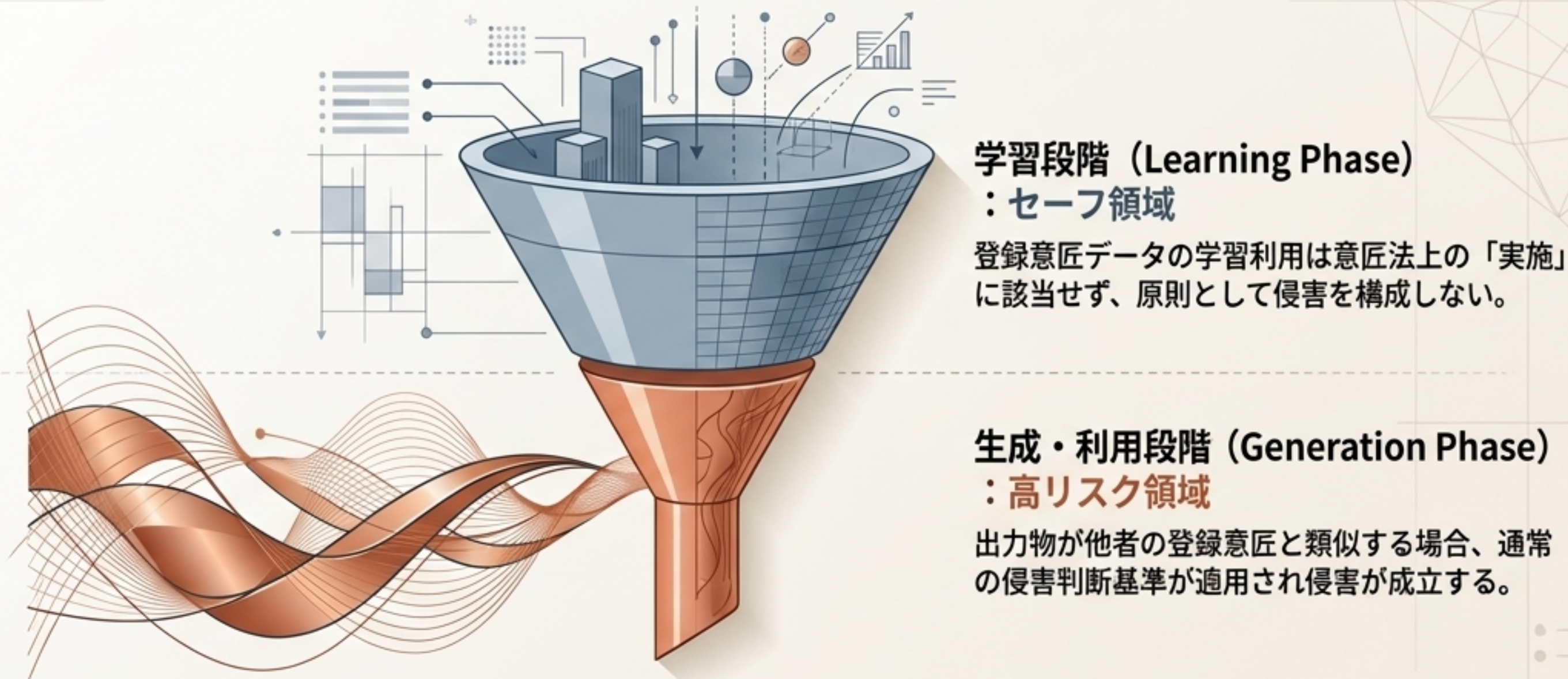
The Human Blueprint



新規性の壁
(Novelty Barrier)

回答企業の58%が懸念を表明。うち95%が「深刻な問題」と認識。

意匠権侵害の地雷原：学習と生成の境界線



最大の注意点：「依拠性」の不在

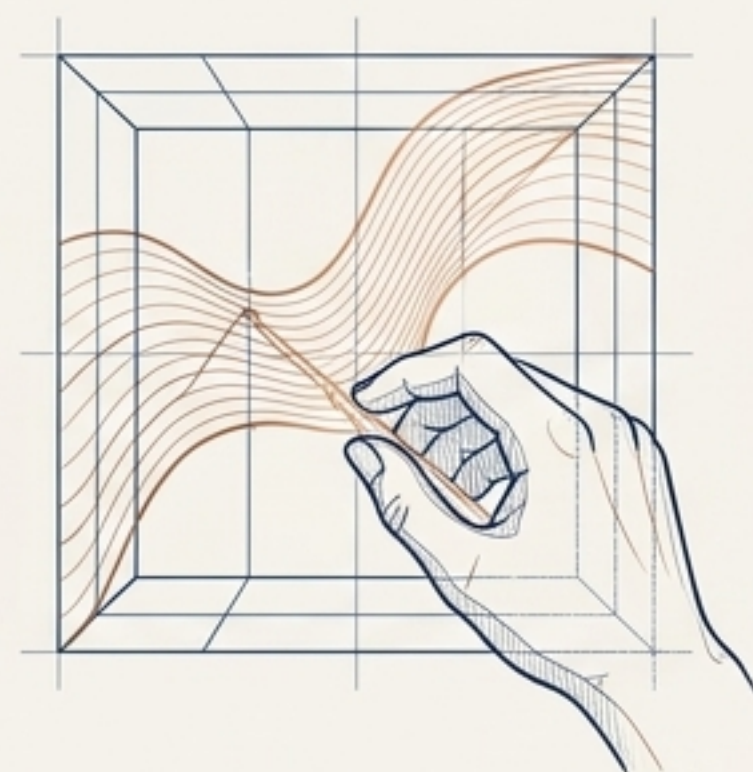
著作権法とは異なり、意匠法には「依拠性」の要件がない。AIが意図せず独立に類似デザインを生成した場合でも、権利侵害が成立する。（AI利用企業の87%がこのリスクを懸念）

企業の実務プレイブック：人間の「創作的寄与」を立証する

AI支援デザインの意匠登録を確保する鍵は、人間がAIを「道具」としてコントロールしたという証拠の確実な保全にある。

推奨される社内記録・証拠保全リスト

- 1. 使用したAIツールとバージョン履歴の記録
- 2. 入力したプロンプトの全文保存（指示の分量と内容の詳細）
- 3. 全中間出力物および生成の試行回数のログ保存
- 4. 複数出力からの「選択・編集・修正」を行った人間の意思決定記録
- 5. タイムスタンプとバージョン管理ログの維持
- 6. 創作的判断（なぜそのデザインを選んだか）の理由の文書化



2026年の地平：日本の意匠法改正と 制度の未来像

2026

新規性破壊への対抗

生成AIによる大量生成への対抗措置。新規性喪失の例外規定の見直しや、立法的防御策の導入。

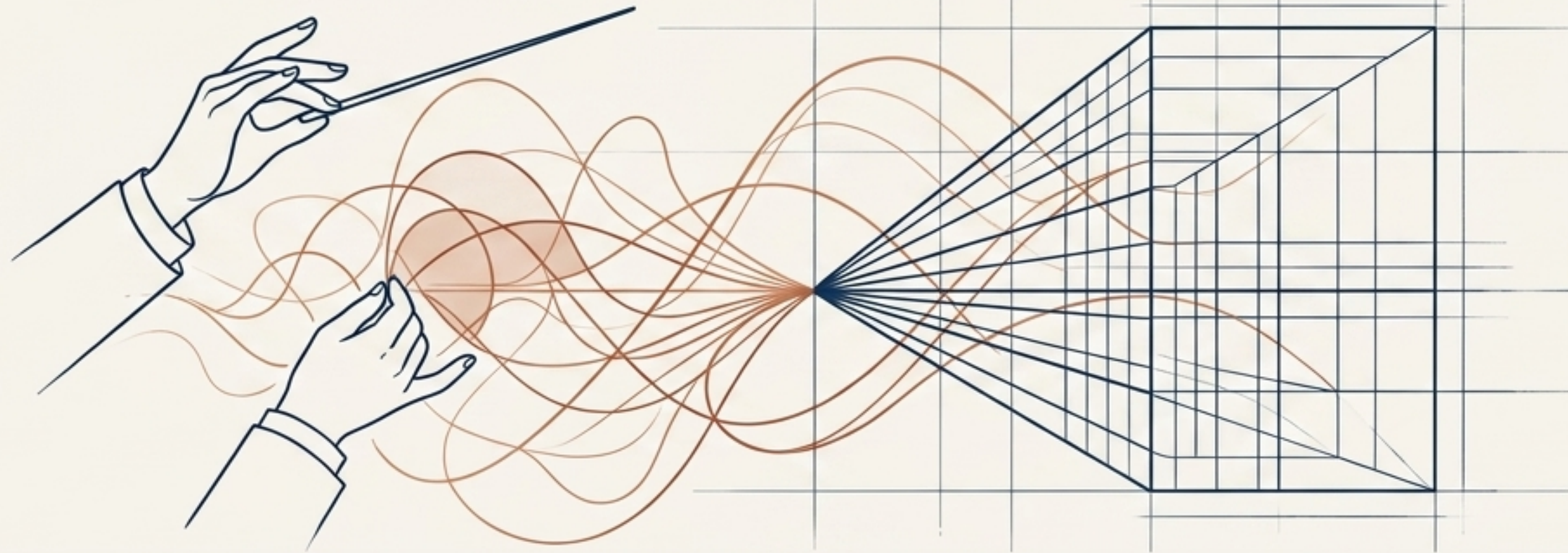
メタバース保護の拡充

仮想空間におけるデザイン保護の再定義。物理的な物品・建築物を超えた「形状を表す画像」等の新カテゴリ創設の議論。

国際的インフラストラクチャ

WIPO AIIIの発足。電子透かし、認証ツール、メタデータ追跡など、AI時代の知財基盤における国際協調と日本主導のルール形成。

クリエイターから「指揮者 (Conductor)」へ



AIの4つの役割 (発散的思考の支援)

- ▶ 1. リサーチ支援
- ▶ 2. 創造性の起点
- ▶ 3. デザイン代替案の生成
- ▶ 4. プロトタイプの忠実度変更

次世代の意匠戦略

- ▶ デザインの全線を自ら引く時代は終わる。AIに作業を委任するのではなく、制約を定義し、出力をキュレーションし、法的な意図を記録する。
- ▶ 知財専門家とデザインリーダーは、ガイドラインと記録体制の構築を通じて、この変革を能動的に設計せよ。